

---

# 流通ビジネスメッセージ標準（流通BMS） 制定経緯と今年度のバージョンアップ内容

平成20年2月  
スーパー業界商材拡大WG

---

# 目次

---

1. 流通ビジネスメッセージ標準（流通BMS）  
策定の狙いと検討経緯

2. 流通BMS基本形Ver1.0の概要（平成18年度策定）

3. 平成19年度のバージョンアップ内容

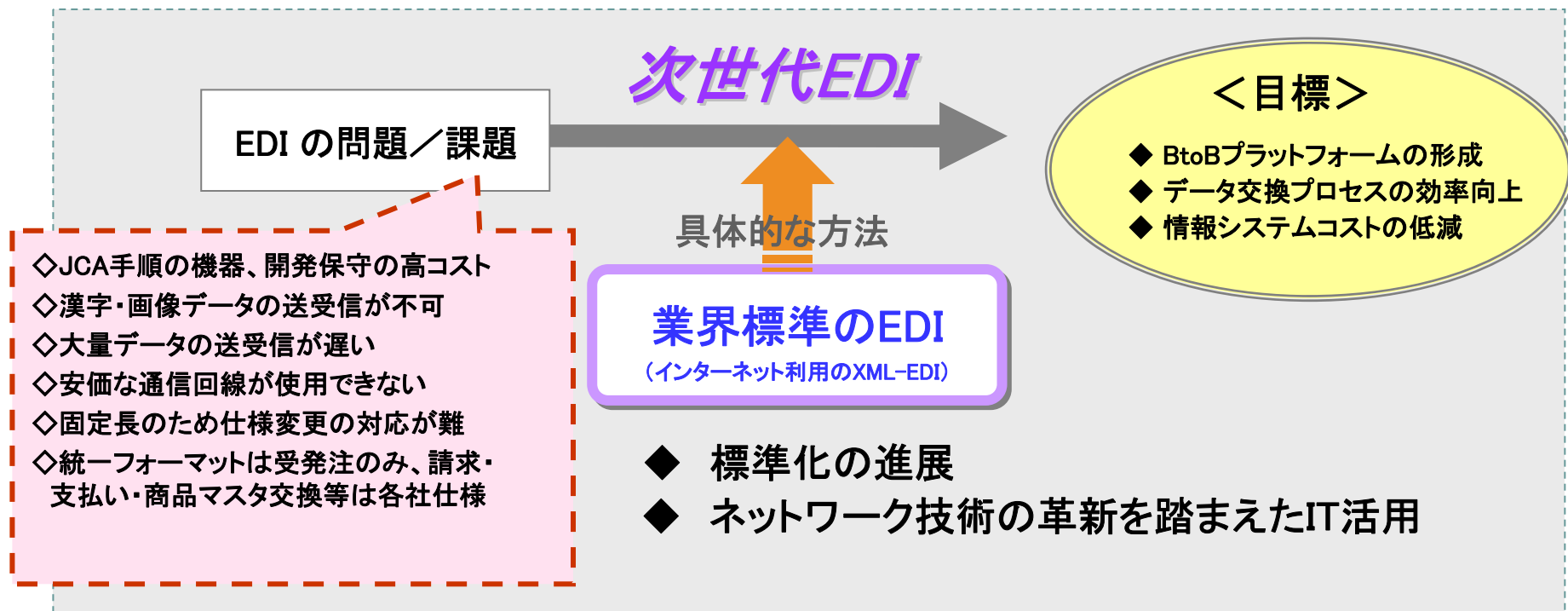
4. 今後のバージョンアップに対する基本的な考え方

## 1. 流通BMS策定の狙いと検討経緯

EDIシステムを、今後は共通インフラとすることで  
消費者へ付加価値を生む部分での競争に注力できる環境を整備

### 狙い

- ・ 現在のEDIの課題を解消し、導入企業に業務革新をもたらす
- ・ 「標準化の進展」と「ネットワーク技術の革新を踏まえたIT活用」  
⇒ n : n 取引の標準化、インターネット技術の活用



## 1. 流通BMS策定の狙いと検討経緯

流通業務におけるEDIシステムの標準化とは  
メッセージ形式やデータ送信のルールを定め運用すること

---

EDIシステムを共通インフラとするには  
「データ項目」とその前提となる「業務プロセス」の標準化が鍵



## 1. 流通BMS策定の狙いと検討経緯

### EDIシステム標準化の前提は

システムの単純切替ではなく、業務改善効果も考慮して検討に着手

---

#### ①個別仕様の発生を抑える

- すべての企業間取引で共通のEDIメッセージを使えるように、「メッセージ種別」、「メッセージ構造」、「データ項目」と「データ項目の意味」、「データ属性」を標準化する。

#### ②現行業務の担保を図る(現行システムの担保ではない)

- 各社の現行業務をできるだけ担保し、移行の負担を軽減する。

#### ③将来の技術・業務に対応できる準備を盛り込む

- 商品マスター情報の同期化(GDS)
- 共通企業識別コード(GLN)
- 共通商品識別コード(GTIN)

#### ④インターネットを使用した通信を前提とする

- XML、セキュリティ

#### ⑤伝票レスを促進する

- 取引証憑の要件を満たすEDIメッセージとすることで、ペーパー仕入伝票を不要とする。

## 1. 流通BMS策定の狙いと検討経緯

EDIシステム標準化の検討に着手して2年で  
流通ビジネスメッセージ標準（流通BMS）Ver1.0 を公開へ

### 【平成16年度】 インターネットを利用したEDIメッセージの伝送実験

- ・JCA手順(9600Bps)で、2時間かかっていたデータ伝送時間が10分になった効果を確認。

### 【平成17年度】 次世代標準EDIの研究：日本チェーンストア協会と日本スーパーマーケット協会の合同WG

- ・取引業務プロセス(メッセージ種)の標準化検討（ターンアラウンドモデル）
- ・各メッセージで使用するデータ項目の標準化検討 →約2100項目を171項目へ名寄せ  
※小売業10社が使用しているメッセージ・データ項目を全て出し合って検討を行った。

### 【平成18年度】 次世代標準EDIの実装：日本チェーンストア協会と日本スーパーマーケット協会の合同WG

- ・平成17年度で検討した取引業務プロセスとデータ項目をベースに生鮮食品の標準化を検討
- ・検討した取引業務プロセスとデータ項目を使用し、グロッサリを対象に本番を前提とした共同実証  
→共同実証の成果を反映した、流通ビジネスメッセージ標準(流通BMS) Ver 1.0 を  
平成19年4月に公開

### 【平成19年度】 流通BMSの拡大：日本チェーンストア協会と日本スーパーマーケット協会の合同WG

- ・アパレルと生鮮食品を対象に、本番を前提とした共同実証を実施

# 目次

---

1. 流通ビジネスメッセージ標準（流通BMS）  
策定の狙いと検討経緯

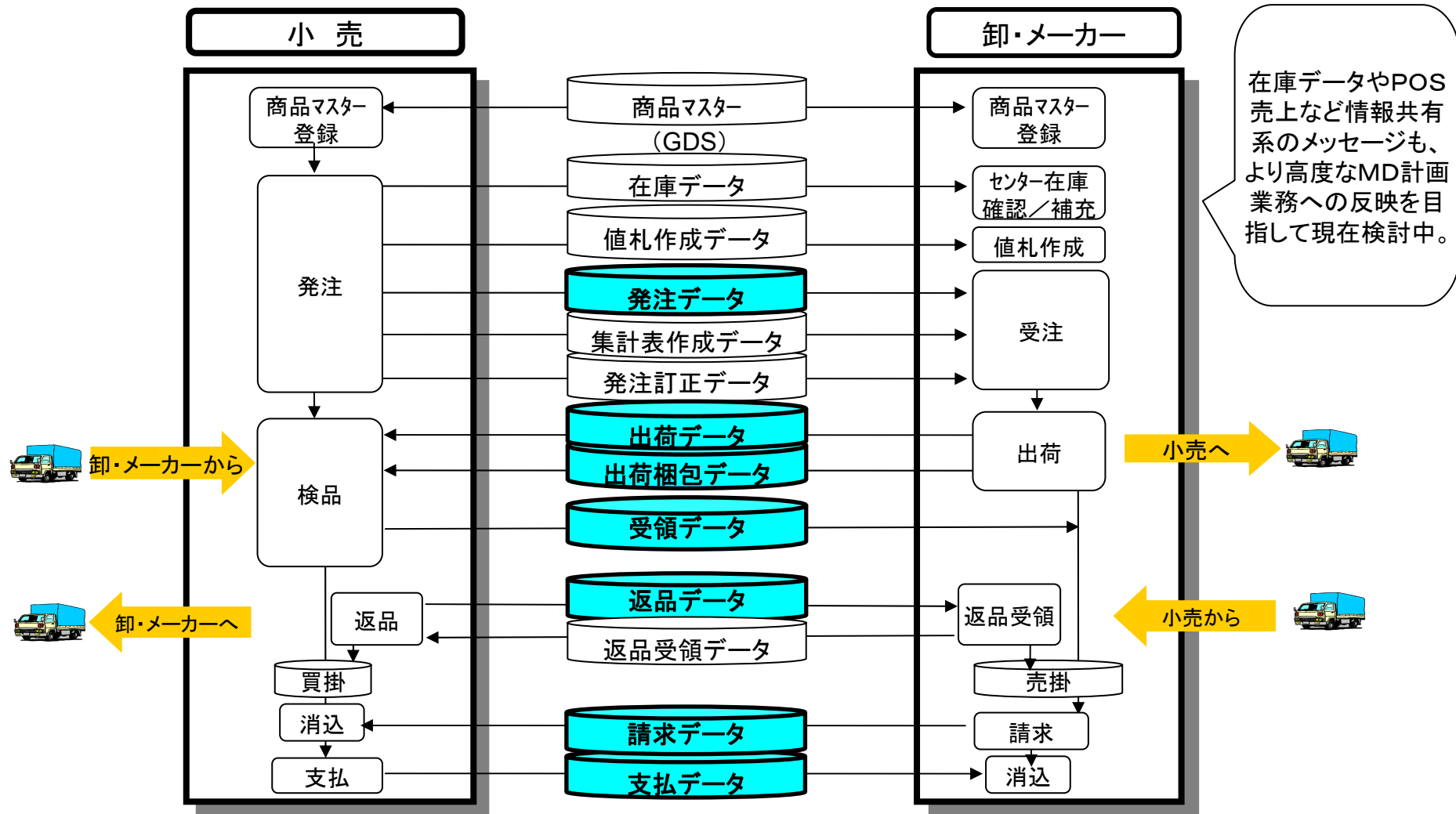
2. 流通BMS基本形Ver1.0の概要（平成18年度策定）

3. 平成19年度のバージョンアップ内容

4. 今後のバージョンアップに対する基本的な考え方

## 2. 流通BMS基本形Ver1.0の概要

将来データ交換が行われると想定される取引業務プロセスを整理し  
基本形Ver1.0では、6業務8メッセージから公開（色付きのデータ）

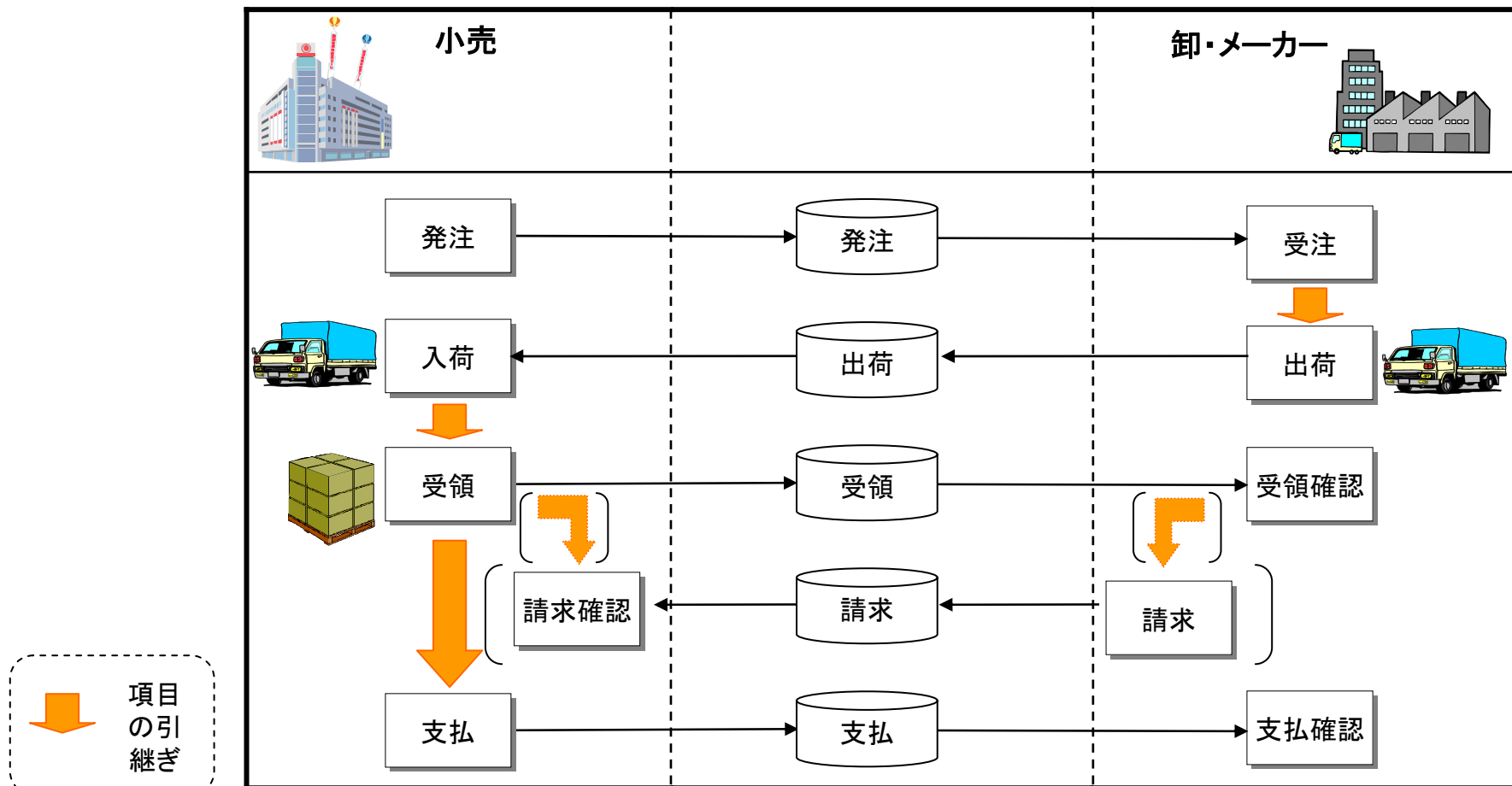




## 2. 流通BMS基本形Ver1.0の概要

### 基本形Ver1.0の運用はスーパー業界で一般的な ターンアラウンド型受発注モデル

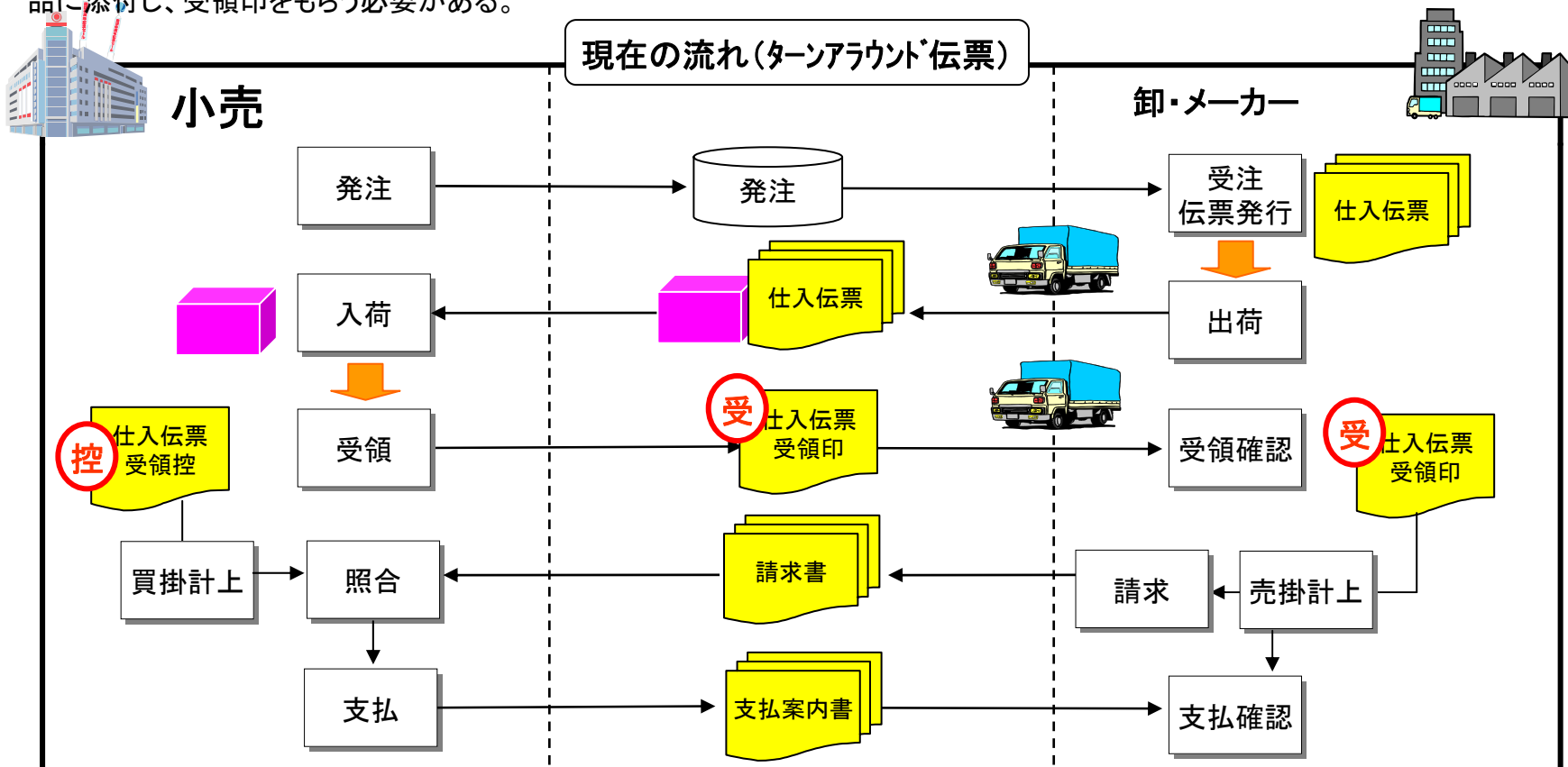
ターンアラウンド型受発注業務モデルとは、小売企業と卸・メーカーとの間で発注・出荷・受領の情報を関連づけてやりとりするモデルを指す。発注で付番される取引番号が、出荷、受領、請求、支払の各メッセージに引き継がれるため、取引番号をキーとして発注から支払までの取引を追うことができる。



## 2. 流通BMS基本形Ver1.0の概要

### 流通ビジネスメッセージ標準（流通BMS）基本形Ver1.0は 伝票レスを前提とした業務改善をとまなうEDI

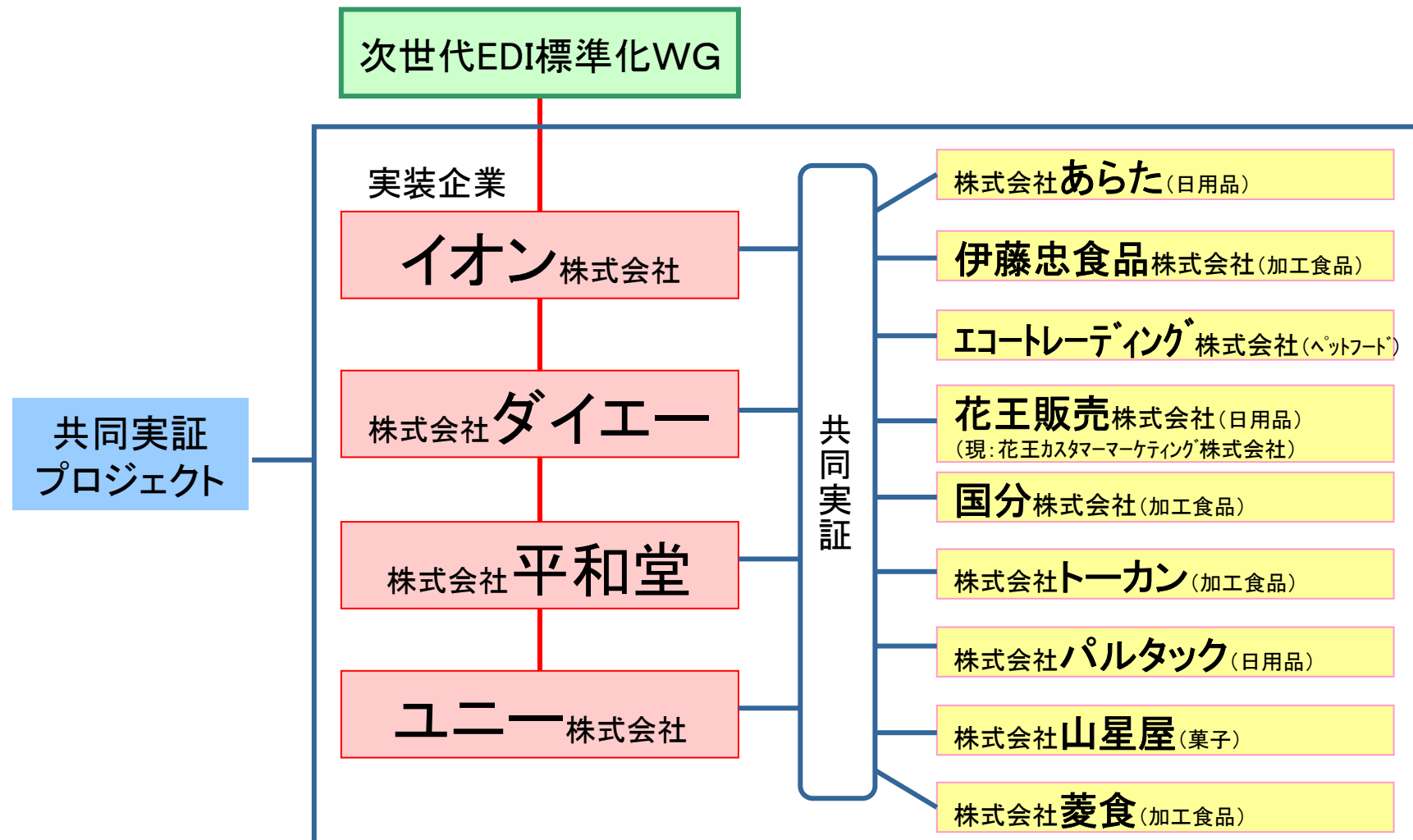
現在は、仕入伝票を商品売買の証憑（しょうひょう）とする取引が主流である。受領印の押された仕入伝票に基づき、商品代金の請求、支払が行われる。そのため、卸・メーカーは小売への納品の際に、小売からの発注データに基づいて発行された仕入伝票を商品に添付し、受領印をもらう必要がある。



「EDIメッセージ」を商品売買の証憑とみなすことにより、取引当事者間でやりとりされているペーパーの仕入伝票をなくし、運用費用（伝票代、発行時間、保存コスト、パンチコスト等）を削減する。

## 2. 流通BMS基本形Ver1.0の概要

流通ビジネスメッセージ標準（流通BMS）基本形Ver1.0の  
共同実証参加企業は、平成19年4月以降に順次本番へ切替済



# 目次

---

1. 流通ビジネスメッセージ標準（流通BMS）  
策定の狙いと検討経緯

2. 流通BMS基本形Ver1.0の概要（平成18年度策定）

3. 平成19年度のバージョンアップ内容

4. 今後のバージョンアップに対する基本的な考え方

### 3. 平成19年度のバージョンアップ内容

## 平成19年度のスーパー業界商材拡大の検討は

小売業19社とメーカー・卸31社で構成し、標準化の議論を実施

#### ◎ 小売業

- ・ (株)アークス
- ・ (株)イトーヨーカ堂
- ・ テスコジャパン(株)
- ・ (株)ダイエー
- ・ (株)平和堂
- ・ (株)マルエツ
- ・ (株)ライフコーポレーション
- ・ イオン(株)
- ・ (株)近商ストア
- ・ (株)西友
- ・ (株)東急ストア
- ・ (株)マルアイ
- ・ (株)ヤオコー
- ・ イズミヤ(株)
- ・ サミット(株)
- ・ 全日本食品(株)
- ・ (株)ハローズ
- ・ (株)マルイ
- ・ ユニー(株)

#### ◎ 卸売業

- ・ (株)あらた
- ・ 伊藤忠食品(株)
- ・ 花王がたママーケティング(株)
- ・ 国分(株)
- ・ (株)トーカン
- ・ (株)パルタック
- ・ (株)菱食
- ・ (株)山星屋

#### ◎ アパレル

- ・ アツギ(株)
- ・ 小杉産業(株)
- ・ クロスプラス(株)
- ・ グンゼ(株)
- ・ トリンプ・インターナショナル・ジャパン(株)
- ・ リーバイ・ストラウスジャパン(株)
- ・ (株)ルシアン
- ・ (株)レナウン
- ・ (株)ワコール

#### ◎ 生鮮卸

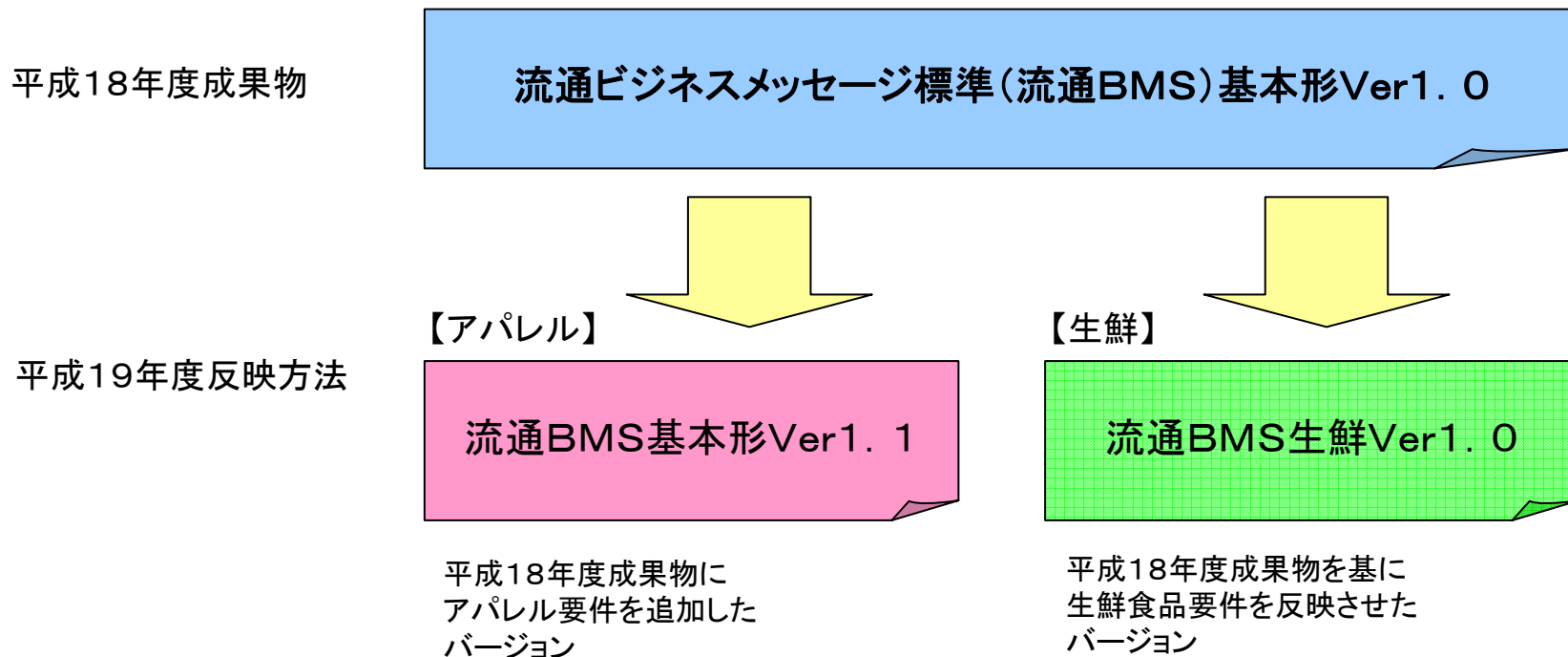
- ・ 伊藤ハム(株)
- ・ (株)エヌ・エス・イー (日本ハム)
- ・ J A全農ミートフーズ(株)
- ・ (株)ジーコス (スターゼン)
- ・ プリマシステム開発(株)
- ・ (株)ミヤチク
- ・ (有)三秀
- ・ 東京シティ青果(株)
- ・ 東京青果(株)
- ・ 東京豊島青果(株)
- ・ (株)船昌
- ・ 大都魚類(株)
- ・ 中央魚類(株)
- ・ 東都水産(株)

### 3. 平成19年度のバージョンアップ内容

平成19年度は、アパレル要件を反映した基本形Ver1.1と生鮮食品要件を反映した生鮮Ver1.0へバージョンアップ

#### アパレル、生鮮食品の流通BMSへの反映方法

- 平成19年度に共同実証を行う、アパレルと生鮮食品の流通BMSへの反映は  
→アパレルは、基本形のバージョンアップで対応（基本形 Ver1.1）  
→生鮮食品は、生鮮バージョンの新規作成で対応（生鮮 Ver1.0）



### 3. 平成19年度のバージョンアップ内容

アパレル要件を反映した基本形 Ver 1.1 へのバージョンアップは  
新規1メッセージと変更6メッセージ

アパレル要件を追加した

流通BMS基本形 Ver1. 1 の変更対象メッセージと変更内容

対象メッセージ	変更内容	変更箇所
発注メッセージ	基本形 Ver.1.0 から基本形 Ver.1.1 へ	商品コード(取引先)に使用されるデータ型を英数から文字(半角カナ)に変更
出荷伝票メッセージ	基本形 Ver.1.0 から基本形 Ver.1.1 へ	
出荷梱包(紐付あり)メッセージ	基本形 Ver.1.0 から基本形 Ver.1.1 へ	
出荷梱包(紐付なし)メッセージ	基本形 Ver.1.0 から基本形 Ver.1.1 へ	
受領メッセージ	基本形 Ver.1.0 から基本形 Ver.1.1 へ	
返品メッセージ	基本形 Ver.1.0 から基本形 Ver.1.1 へ	新規
値札メッセージ	新規メッセージ追加、基本形 Ver.1.0 へ	

請求及び支払メッセージは、基本形 Ver1. 0 から変更なし

各メッセージ毎のバージョン付番について

- ・新規メッセージは Ver1. 0 から順次採番していく
- ・実装に使用するXMLスキーマの配布方法は検討中

### 3. 平成19年度のバージョンアップ内容

値札メッセージの基本的な考え方は、印字時に変換する方式から  
印字情報そのものをEDIメッセージで送信する方式

---

- 値札メッセージの共有は、共有する企業（小売対値札発行業者、小売対アパレル）、送付タイミング（事前送付、発注と同時）によってメッセージの位置付けが異なる。値札メッセージは多様なプレーヤー間、タイミングを一つのメッセージで利用可能とする。
- 「値札印字情報そのもの」をEDIメッセージ項目として共有することを目指す。  
これにより、EDIデータ項目から値札印字情報項目へ変換する業務（システム）負荷を削減する。
- 但し、現状業務（システム仕様）担保の観点から「EDI上の各項目から印字変換して利用する場合（従来型）」と「値札印字情報そのものをEDIメッセージ項目として利用する場合（コンセプト方針）」の双方に対応したメッセージ項目とする。
- 現状業務上の課題である値札印字情報項目への変換コストの削減を実現するため、値札印字情報そのものをEDIメッセージ項目とする推奨セット方法をガイドラインに提示し、今後取り組む各社のガイドを図る。
- 値札台紙の標準化を継続検討することで、業務（システム）負荷のさらなる軽減を図る。



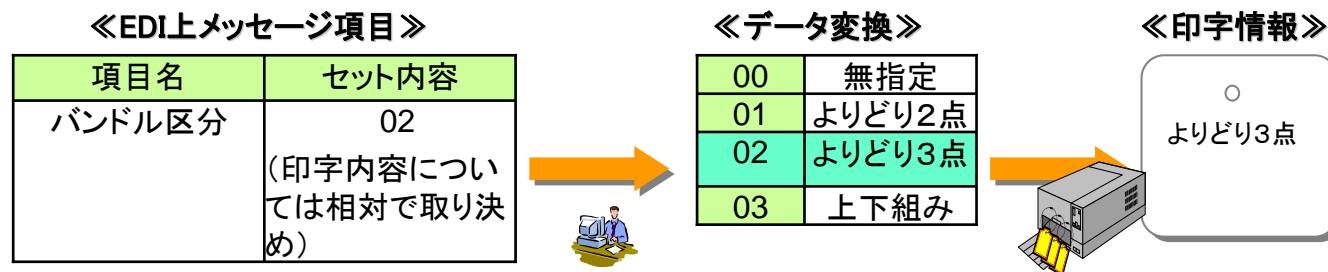
### 3. 平成19年度のバージョンアップ内容

値札に印字する情報を、印字イメージのまま値札メッセージにセットすることで、小売業、アパレル企業双方の業務改善を図る

- 従来の値札メッセージでは個別のメッセージにより受け渡し、値札発行側で印字内容への変換を行っていた。
- 標準値札メッセージでは印字イメージをそのまま受け渡すことを推奨とし、変換加工を行わずに値札を発行できることを目指していく。

現状

#### ①EDI上の各項目から印字変換して利用する場合(従来型)



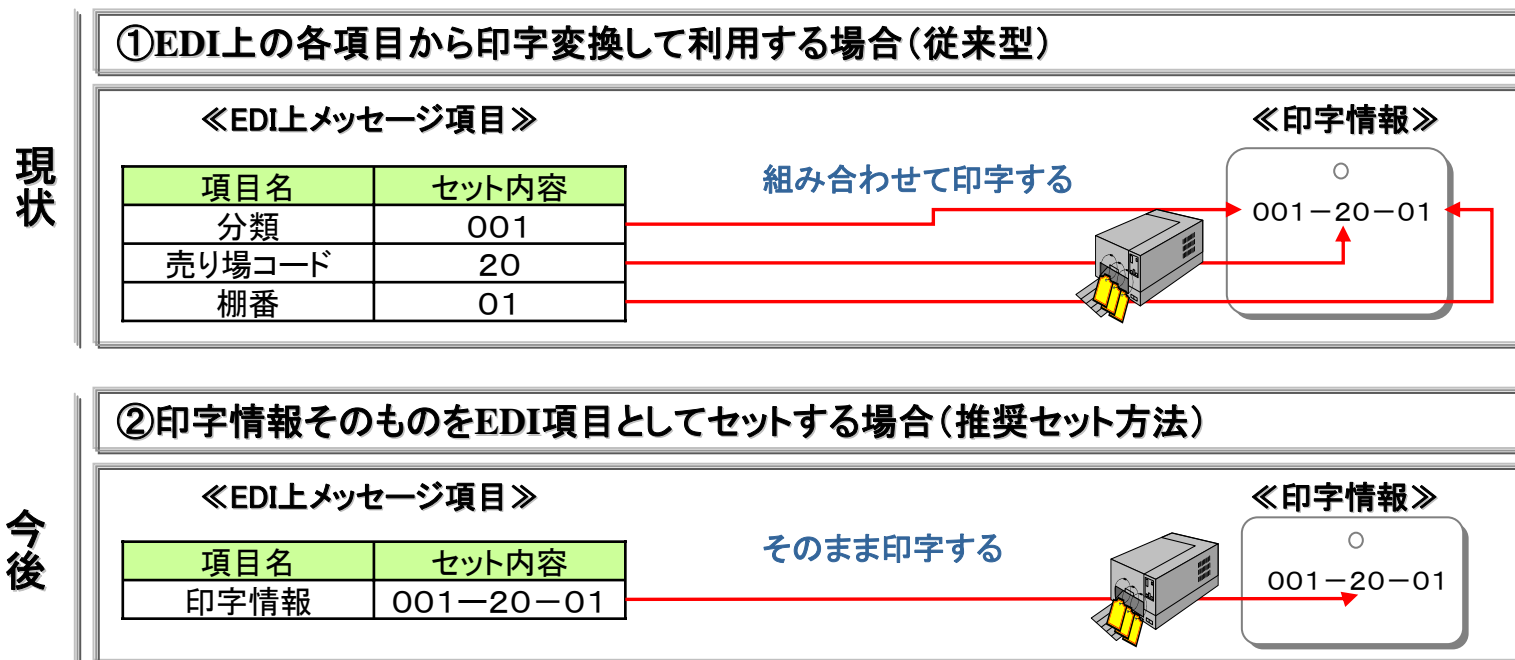
今後

#### ②印字情報そのものをEDI項目としてセットする場合(推奨セット方法)



### 3. 平成19年度のバージョンアップ内容

値札に印字する情報を、印字イメージのまま値札メッセージにセットすることで、複数項目を組み合わせて印字する作業を軽減する



#### ● 印字情報そのものをEDIデータ項目としてセットすることによるメリット

##### ➤ 小売側のメリット

値札印字内容の変更時に、送付する印字情報を変更するだけで対応可能となる。値札発行業者／アパレル各社への発行マニュアル訂正や再テストなどの変更対応の負荷軽減が期待できる。

##### ➤ アパレル側のメリット

印字変換を行う必要がないため、変換作業、小売毎の個別対応プログラムが不要となる。

### 3. 平成19年度のバージョンアップ内容

## 生鮮食品要件を反映した生鮮Ver1.0は新規5メッセージ

### 生鮮食品要件を追加した 流通BMS生鮮 Ver1.0 の対象メッセージ

対象メッセージ	変更内容	変更箇所
生鮮発注メッセージ	新規メッセージ追加、生鮮 Ver.1.0 へ	新規
生鮮出荷メッセージ	新規メッセージ追加、生鮮 Ver.1.0 へ	新規
生鮮受領メッセージ	新規メッセージ追加、生鮮 Ver.1.0 へ	新規
生鮮返品メッセージ	新規メッセージ追加、生鮮 Ver.1.0 へ	新規
集計表作成メッセージ	新規メッセージ追加、生鮮 Ver.1.0 へ	新規

請求及び支払メッセージは、基本形 Ver1.0 を使用する

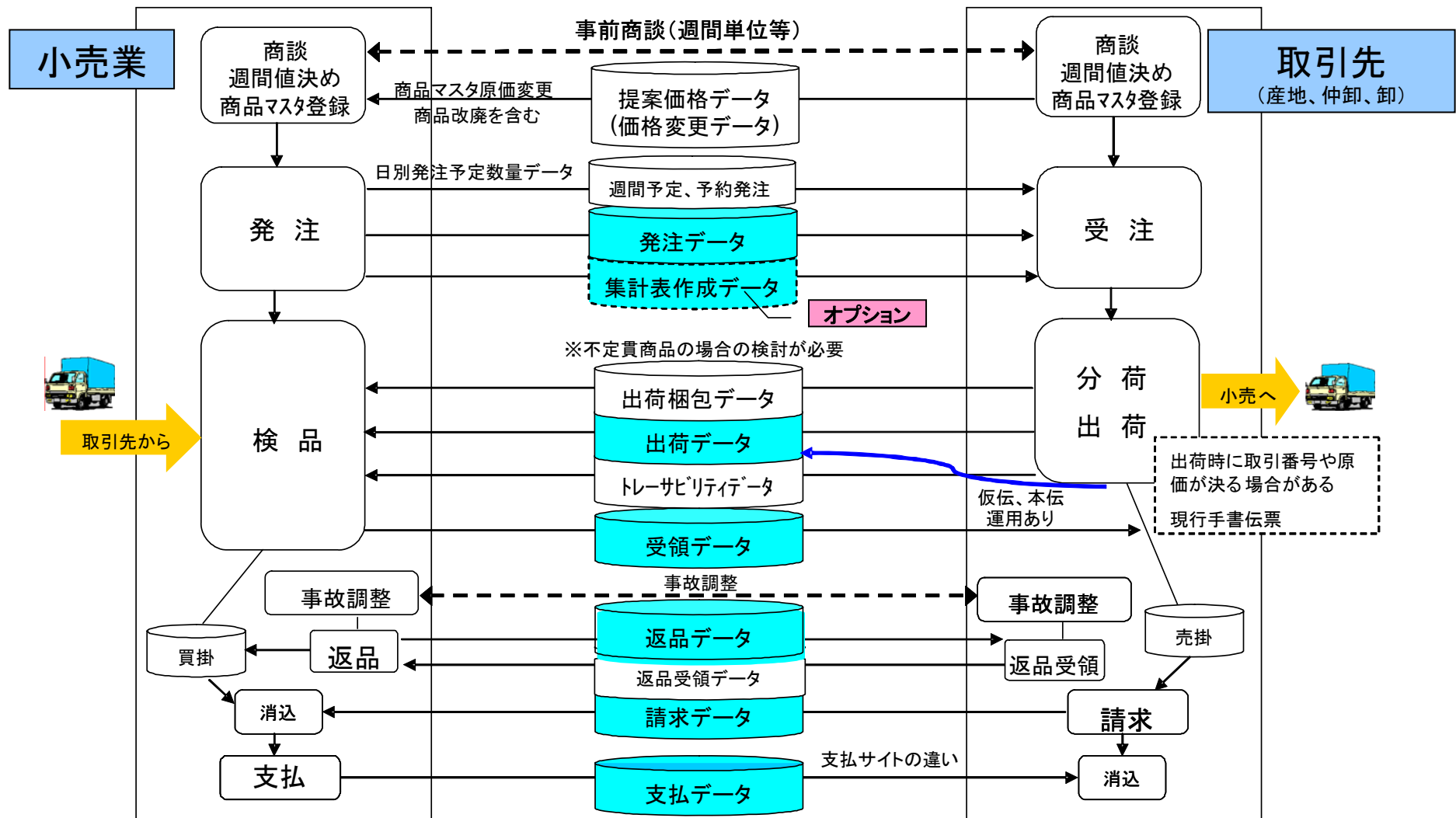
各メッセージ毎のバージョン付番について

- ・新規メッセージは Ver1.0 から順次採番していく
- ・実装に使用するXMLスキーマの配布方法は検討中

### 3. 平成19年度のバージョンアップ内容

生鮮食品の取引業務プロセスを整理し

生鮮Ver 1.0では、6業務7メッセージから共同実証へ（色付きのデータ）



### 3. 平成19年度のバージョンアップ内容

生鮮Ver 1.0のデータ項目は、基本形Ver 1.0をベースに  
不定貫、出荷時に商品が確定、商品属性の34項目を検討して追加①

---

#### ①不定貫取引項目

項目名称	項目の意味
不定貫区分	定貫・不定貫を表す
単価登録単位	不定貫の場合の取引単位（ex. 1Kgあたり／100gあたり）
発注重量・出荷重量・受領重量・返品重量	不定貫の場合の取引重量
重量合計	不定貫の場合の取引重量合計

#### ②生鮮取引の特徴（出荷時に商品、原価etcが決まるまたは変わる）のための項目

項目名称	項目の意味
元取引番号・元取引明細番号	取引番号が追加/変更になった場合の元の取引番号
出荷者管理番号・出荷者管理明細番号	発注に対し、出荷者側で管理する番号
取引番号有無区分	取引のタイプ、取引番号の発番基準を表す
商品コード（出荷元）	ソースマーキングされた生産者コード
仮伝フラグ	仮の単価を表す、正式には後日確認を取ってから

### 3. 平成19年度のバージョンアップ内容

生鮮Ver 1.0のデータ項目は、基本形Ver 1.0をベースに  
不定貫、出荷時に商品が確定、商品属性の34項目を検討して追加②

#### ③商品属性項目

項目名称	項目の意味
都道府県コード・国コード・産地名	原産地を指定して発注する場合の産地や水域を表す (ex. 鹿児島産、東シナ海、焼津港etc)
水域コード・水域名	
原産エリア	
等級	商品のグレードを表す (ex. A、B etc)
階級	商品のサイズを表す (ex. 2L、L etc)
銘柄	産地銘柄
商品PR	商品特性 (ex. 朝取り、土付き etc)
取引単位重量	卸売市場等で取引される単位重量(ex. 5Kg、10Kg etc)
バイオ区分	商品栽培時のバイオ技術適用/非適用(遺伝子組換え)
入数	出荷単位の荷姿入数
商品重量	発注数量(バラ)1個当たりの容量を表す。内容量。
品種コード	食肉用の品種 (黒毛和種 etc)
養殖区分	養殖・天然
解凍区分	解凍・解凍以外
商品状態区分	活・チルド・冷凍・常温・冷蔵
形状・部位	セット・・ローズ・・大トロ・・・etc
用途	生食用・加熱用. . . etc

# 目次

---

1. 流通ビジネスメッセージ標準（流通BMS）  
策定の狙いと検討経緯

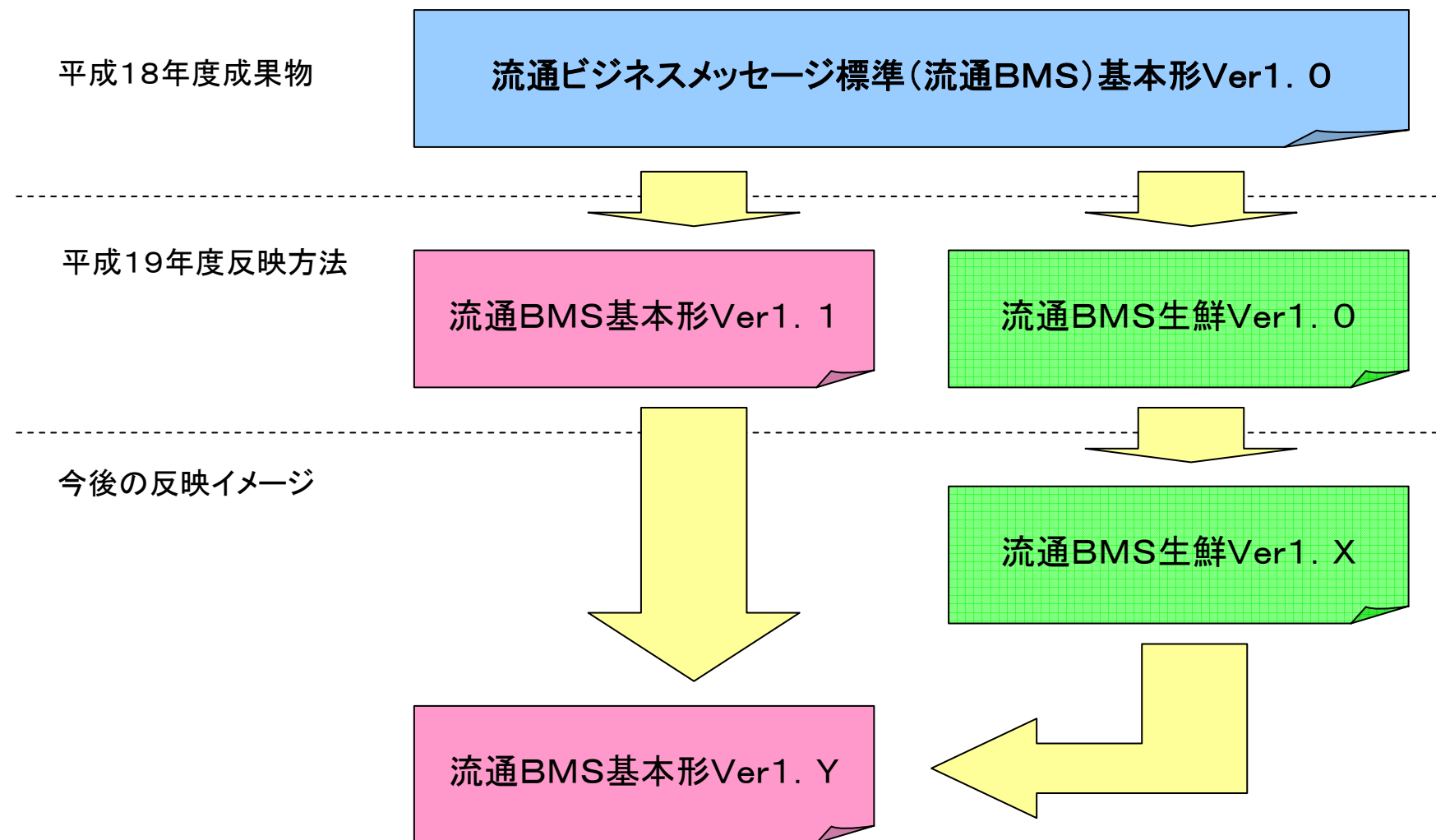
2. 流通BMS基本形Ver1.0の概要（平成18年度策定）

3. 平成19年度のバージョンアップ内容

4. 今後のバージョンアップに対する基本的な考え方

#### 4. 今後のバージョンアップに対する基本的な考え方

メッセージの基本は1本化の方針のもと、生鮮メッセージが業務運用含めてまわることを確認したタイミングで基本形メッセージに統合する予定





#### 4. 今後のバージョンアップに対する基本的な考え方

平成20年度は、継続検討メッセージの具体化と  
標準化への優先度の高い業務プロセスについて検討を実施予定

検討予定事項	検討状況、内容
預かり在庫型センターに関するメッセージ	<ul style="list-style-type: none"><li>・預かり在庫型センターに関する業務プロセスと必要なメッセージは平成19年度に洗出し済。</li><li>・平成20年度に各メッセージのデータ項目を精度向上予定。</li></ul>
POS情報に関するメッセージ	<ul style="list-style-type: none"><li>・販売報告、店頭在庫、センター在庫を含めて、業務プロセスとメッセージを検討予定。</li></ul>
生鮮継続課題の標準化	<ul style="list-style-type: none"><li>・計画発注、週間予約、食肉固体識別番号等に関する業務プロセスとメッセージを検討予定。</li></ul>
アパレル継続課題の検討	<ul style="list-style-type: none"><li>・消化型取引プロセスについて検討予定。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・優先度の高い業務プロセスが発生した場合は、優先度を見直し柔軟に対応予定。</li></ul>